大阪繊維工業高等学校　　摂陵高等学校

秀麗会会報

3号
平成20年（2008年）6月8日
発行　秀麗会

秀麗会会報編集事務局
ベルデアート内
〒540-0035
大阪市中央区釣鐘町1-4-3
舟瀬ビル205
TEL：06-6944-6936
FAX：06-6809-2155
E-mail：shureikai@utopia.ocn.ne.jp

これまでの50年、そして未来へ

秀麗会書記
小阪 克彦
（摂陵４期）

向暑の候、会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本号の巻頭にてごあいさつを申し上げることになりました書記の小阪克彦でございます。

私は、平成15年5月より2年間、卒業生として初めて母校のＰＴＡ会長に就任させていただきました。それは摂陵高校になってからちょうど30年目、前身の大阪繊維工業高校創立から数えて43年目のことでありました。

当時は、現在のようなＰＴＡと秀麗会との交流は全くなく、また母校を交えた３者間での意見交換をする場もありませんでした。今日の私立中学・高校の経営・運営の実情からすれば、大変時代遅れな関係であったのではないかと思います。

そのような中、修学支援金制度の創設について祖田好夫会長にご協力をお願いしましたことが、母校・ＰＴＡそして秀麗会間の協力関係を構築する契機になったのではないかと思っております。それ以降、和太鼓をＰＴＡと共同して母校に寄贈したことや、母校・ＰＴＡ・秀麗会の３者の定期的な意見交換会を開始するなど、母校と母校に学ぶ生徒諸君への効果的な支援活動に向けた協力関係の基礎として結実し、また、秀麗会自身も会員の皆様への活動の一環として会報の創刊と定期的な発行活動へとつながり得たことは大きな喜びでございます。

さて、われらが母校は、４年後の平成24（２０１２）年に創立50周年を迎えます。昭和37（１９６２）年４月に前身の大阪繊維工業高校にその第１期生68名の先輩方が入学され、そこから歴史が紡ぎ始められました。そして平成20年３月卒業生により、同窓生は１万２千名を超えるまでになりました。しかし、これからの母校はこれまでの母校とは大きく違ってくることになるかもしれません。少子化や教育の多様化などにより、私立中学・高校の存在環境が激変しているからです。既にいくつかの私立高校が他の高校に吸収され、公立高校でも数多くの統廃合や大規模な学区の見直しが行われています。

母校がこれからも毎年卒業生を輩出されることが、同時に秀麗会も新しい仲間を迎え、本会がますます盛んに活動するためのエネルギーとなります。時代の変化にも機敏に対応しながら、このエネルギーを得て、活動を継続して参りたいと思います。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

もくじ

これまでの50年、そして未来へ
秀麗会書記　小阪 克彦（摂陵４期）・・1

対談特集
摂陵中学校・高等学校のさらなる飛躍を求めて・2

第３回 恩師を訪ねて
高田健一郎先生　・・・・4

母校へ掲示板の寄贈　・4

新学校長紹介
小関信行先生　・・・・・5

第３回 母校の現在・・・5

活躍するクラブ活動（野球部）・5

会員の近況報告・・・・6
摂陵４期　丸垣内幸雄氏
繊維２期　田中昌明氏
摂陵７期　田中秀明氏
摂陵30期　井上雅之氏

会員インタビュー・・・7
摂陵17期　上甲宜之氏

秀麗会役員
立候補受付の告示・・・8

秀麗会会報の題字について

当会報の題字は、繊維２期・小山昇三氏の筆によるものです。

対談特集

摂陵中学校・高等学校のさらなる飛躍を求めて

平成20年3月15日、摂陵高等学校校長室において、「摂陵の現状とこれからの展開」をテーマに座談会を開きました。

（※肩書きは座談会開催日現在のものです）

●出席者

中垣芳隆学校長
清水敬之教頭先生（高等学校）
上沼敏彰教頭先生（中学校）
3年部進路指導部　網代文和先生
入試部　亀田昭人先生
3年部総務部　浅野正憲先生
PTA会長　玉川泰貴氏
秀麗会会長　祖田好夫氏

求められる生徒像

浅野先生

浅野　学校教育をとりまく環境は非常に厳しいものがあります。中垣校長はたいへんな時こそ組織は柔軟な志向でやっていかなければならないとおっしゃってきました。

中垣　大学進学実績を上げる、生徒募集に戦略を立てる、それは必要なことですが、うちの生徒たちには極めて簡単な、あいさつがきちっとできるなど「基本的なことをしっかりやろうよ」と言ってきました。競争の結果、格差が出るのはやむをえないところですが、忘れてはならないのは、いろいろな競争の根源にあるのはヒューマニズムで、「勝者であっても敗者の痛みがわかる」という部分です。敗者に対して追い打ちをかけない、それを生徒に教えていきたい、それが我々の役目であると思います。

中垣学校長

　生徒というのは教員がどんな状況にあるか、素直に反映する写し鏡だと思っています。生徒に元気がないということは、教員も元気がないということであります。私は先生方とふれあう時間を努めてつくり、先生方の健康を気遣ってきました。それは生徒に伝わっていると思います。

清水先生

清水　全校朝礼では生徒が話を聞くようになってきました。また、生徒の熱意、教員の熱意も上がってきているように思います。

上沼　校訓の「責任・自立、質実」は、組織の中でも責任を果たす、自分を律するということで、我々はさらに「学力」という知性がそれに加わった「紳士」を6年間で育てていくのが使命ではと思っています。

ひいき目で見ているところがあるかもしれませんが、以前よりいい状態になっていると思います。

大学の変化とⅢ類のあり方

網代　今、少子化の影響を受けて、今年の入試ぐらいから、大学の募集人数が卒業生徒数を上回ってしまいました。それによって入りやすい大学と入りにくい大学がはっきり分かれてきました。関関同立、産近甲龍あたりは、競争率は高いままです。国公立の希望も増えてきています。

上沼先生

清水　今年はじめてⅢ類の1期生が卒業しましたが、期待していたようにできた部分とそうでない部分があります。

中垣　初年度は仕方がないと思います。Ⅲ類の生徒は国公立なら一浪しても、自分の行きたい学校を目指せばいいと思います。ただし、私学を受ける子は、基本的に摂陵で公立校よりも高い授業料を払っ

ているわけだから、現役で通るようにさせたい、と先生方に言っています。

　指定校推薦は人生を安易な形で生きていくというのにつながっていくのではないかと危惧（きぐ）しています。一般入試でも十分通るという力をつけないと、摂陵としては責任を果たせない。今年2月の一般入試ではしっかりした結果を出しているから、私はⅢ類の成績に納得しているんです。

網代　Ⅲ類については、生徒も教員もかなり意識を持ってやってきました。1月の卒業式後、2月25日に行われた国公立試験まで、少なくとも10名前後が登校してきて、勉強をしていました。自習している生徒たちの質問を受けたり、いい具合で教員もまとまれたなと思います。

　多かったときは、午後に息抜きにバスケットまでやりま

網代先生

塾からの評価とのギャップ

亀田先生

亀田　塾も「きめ細かく鍛えてくれるし、安心して子どもを預けることができる学校である」と思ってくれています。ただその言葉通りには、なかなか子どもが入ってきてくれていない。平成11年度では高校は受験者800人で入学者400人、中学は400人の受験者で160人の入学者がありました。今年は高校が400名の志願者で180名の入学者、中学校は160～70名の志願者で60名ぐらいの入学者でした。いい学校ですね、と言われながらも、受験生を我が校に送ってくれない原因は考えねばと思います。またプラスαの人間的な成長をさせてくれるような教育も求められています。

中垣　もっと具体的にいったら、男女共学だと思います。今の時代は、男女が協働社会になっています。男子校であり続けるなら、より鮮明に特色を出さないといけないです。

清水　21年度に併設の向陽台高校から1学年30名、女子の音楽コース生が入って来ることになりました。

学校とPTA、秀麗会のあり方

玉川・PTA会長

中垣　三輪車でいうと学校は前輪、後ろはPTAと秀麗会です。定期的な意見交換、日々の学校のあり方について提案いただくという場をつくっていきたいです。

玉川　PTAも理念を掲げ、実践していくマネジメントが大事で、できるだけ多くの保護者を引き込むムードづくりも大切だとやってきました。

祖田　秀麗会としては学校とつかず離れずぐらいが適度かと感じています。制度をつくった修学支援金は、金銭的な面で途中で退学を余儀なくされるのは気の毒だという思いが強いからです。私は繊維工高で授業料からおこづかいまで奨学金で面倒をみてもらいました。簡単に除籍処分にしないことを学校の伝統にしていただけたらと思います。

　一つ学校に要望があるのですが。学校に恩師の先生方が集まれる場所があったらなと思っています。繊維工高では寮生活を3年間送り、先生方はプライバシーもなく、全部さらけ出して指導してくださり、感謝しています。その先生方に気軽に来ていただける場を提供したいです。

祖田・秀麗会会長

中垣　摂陵はこれからまだ進化していかなければなりません。伝統というのは、それぞれの組織でバトンタッチをしていくもので、全体的に摂陵の発展につなげる役割を学校、PTA、秀麗会はそれぞれ担っているのではと思っています。これからも、よろしくお願い申し上げます。

シリーズ

恩師を訪ねて

第3回　髙田健一郎先生（元学校長）

城めぐりの講師としてご活躍中

本校とのかかわりは？

奉職したのは昭和38年4月。新卒で創立2年目の本校（当時は大阪繊維工業高等学校）の国語科の教員として勤めました。校長職は平成9年から14年までの6年間でした（7代目）。繊維工業高等学校、摂陵高等学校・摂陵中学校とお世話になりました。

城めぐりをされていると聞きました。

現在はサンデー毎日といった状態ですが、月に1，2度全国の「城めぐり」の講師をしています。参加されるのは年配の方ばかりですが、みなさん元気で好奇心が強く、行動力もあり、私自身がよい刺激を受けています。

この城めぐりも、すでに4年を迎えました。日帰りできる近畿、東海、中国地区はほとんど行っています。城ファンは多いのですが、城に寄せる興味の対象は多様で、天守閣ややぐら、城門などの構造物がなくてはだめという人から、石垣を見るだけで十分、城跡の石標1本だけで満足という人もいます。ですから見学プランの設定がたいへんなんです。ただ、このところの参加者の多くは「日本城郭協会が選定した『日本100名城』のすべての城を見ようということに関心が集まっているようです。城を訪ねるたびに専用のスタンプ帳を持って一つ一つ押印していくのですが、もう60カ城を巡りました。

いつまでもお若い髙田先生（中央）

まだ行きたいお城があるそうですね。

南は沖縄県の首里城など3カ城を訪ねています。北は北海道の五稜郭は行きましたが、「根室半島チャシ跡」が難題になっているのです。遠いですからねえ。それでもぜひ実現をと気炎を上げています。

難題といいますと、地元の大阪府では大阪城と千早城が選定されていますが、千早城にはまだ行けずにいるのです。千早城は金剛山の中腹にある城、楠木正成が築城したもので、幕府を苦しめた要害だったことは知っていると思います。難攻不落の城は現代人にとっても「しんどいからねえ」といった存在になっているわけなんですよ。

訪ねる城の下見やレジュメ作りなどの準備に追われながら過ごしているのが近況といったところです。私も70歳になっていますが、仲間たちを見ていますと私もまだまだという思いでいます。

ありがとうございました。いつまでもお元気でと願っております。合わせて百カ城の制覇を期待しております。

（文／繊維2期　祖田好夫）

平成21年 学校説明会のご案内

●学校説明会

〈中学校〉

第1回説明会　10月18日（土）午後
第2回説明会　11月8日（土）午後
第3回説明会　12月6日（土）午後

〈高等学校〉

第1回説明会　10月25日（土）午前・午後
第2回説明会　11月15日（土）午後
第3回説明会　12月13日（土）午後

会場はいずれも学園生徒会館

※参加お申し込み・お問い合わせは
摂陵中学校・高等学校入試部
☎072(640)5570

掲示板を寄贈しました

母校より本会と母校PTAに対し、掲示板の設置についての要望が寄せられました。本会では母校PTAとも協議を重ね、共同で全天候型掲示板2基を平成19年7月母校に寄贈いたしました。設置場所は母校とも相談の上、生徒たちが毎日見ることができ、また来校されたお客様への案内にも利用できることを考え、1号棟（中学校舎）前の通路に設置いたしました。

学校から生徒たちへの連絡掲示や来校されたお客様への案内掲示などに活用されています。

寄贈した全天候型掲示板

母校の現在（いま）　第3回

本校自慢の施設

摂陵中学校・高等学校事務　渡邊斉章（摂陵21期）

時がたつのは早いもので、摂陵を卒業して約10年。縁あって摂陵で働くようになり、4年目を迎えました。

私が4年前、久々に摂陵の門をくぐってまず目を引いたのは、運動場を見下ろすようにそびえる『学園生徒会館』でした。

『学園生徒会館』は、ホール・摂陵ラウンジ・向陽台ラウンジ・食堂の4つから構成される建物です。

『ホール』は、約八百名収容可能で、毎年、入学式・卒業式や文化祭の生徒舞台発表などに利用されています。また、そのほかにも芸術鑑賞会・PTA文化行事などさまざまな学校行事においても活躍しています。一昨年の芸術鑑賞会では月亭八方氏・桂きん枝氏を迎えての落語公演、昨年のPTA文化行事では桑名正博氏のアコースティックライブと日ごろから大舞台に立たれている著名な方々にも自信を持って利用していただける施設となっています。

また、『食堂』も大きく様変わりしました。かつての薄暗かった印象は一変し、太陽光をたくさん取り込むようなガラス張りとなり、とても明るく温かな印象を与えてくれるようになりました。

当時とは趣の変わった『食堂』であっても今と変わらないものもあります。それは食事の安さです。一例を挙げると定食360円、めん類200円と、相変わらず学生のお財布に優しいお値段となっています。

今の摂陵をもっとお知りになりたい方は気軽に母校にお越しください。

新学校長ご紹介

母校・摂陵中学・高校の新学校長に小関信行（こせきのぶゆき）先生が平成20年4月1日付けで就任されました。初代の村上正己学校長より数えて第12代学校長となります。

小関学校長は、昭和23年山形県生まれ。昭和49年同志社大学大学院を修了後、社会科教諭として母校に着任されました。普通科への改組転換当初の摂陵高校黎明（れいめい）期から教壇に立たれ、生徒たちへの教育・指導に携われました。その後、摂陵高校教頭を経て平成13年から向陽台高校教頭、平成19年4月より同校の学校長に就任されています。

私学を取り巻く厳しい社会環境の中、母校の発展・飛躍に向けたかじ取りにその手腕が期待されています。

活躍するクラブ活動

野球部

部員数、実力共にアップ

毎日放課後になると広いグラウンドを整然とランニングするユニフォーム姿の部員たちが目に飛びこんできます。

現在部員は3年生が23名、2年生が20名、1年生はまだ定着していないものの、30名を超す勢いで、監督の入道先生や部長の桂先生がうれしい悲鳴をあげています。チームを引っ張っていくキャプテンの小俣大輔くんは「与えられたメニューを単にこなしていくだけじゃなくて、自分たちで考えて積極的に取り組んでいこうと努力しています」と語ります。

こうした変化は結果にも如実にも表れていて、昨年度の夏以来、練習試合30試合中、負けた試合は3試合だけ。この春の公式戦でもこの勢いは止まらず、既に2回戦を突破しました。昨年秋の公式戦ではベスト32の戦いで9回裏に逆転されてベスト16を惜しくも逃した経験があるだけに、今回は大いに期待できそうです。強豪チームがひしめく大阪では頂点に立つことは並大抵ではありませんが、そうした強豪チームと互角に戦えるだけの実力は確実についてきたようです。

入道先生はご自身の野球部の指導について次のように語っています。「大事なのは、部員のモチベーションをいかに高めるかということですね。監督の目の届かないところで、一人一人がいかに真剣に取り組んでいくかということなのです。それと部活を通じて、高校生としてのマナー、人としてのマナーもしっかり学んでもらいたい。これがしいてはチームの向上にもつながります」

野球部もまた高校の部活のあるべき本道をしっかり歩んでいるようです。

会員の近況報告「元気にがんばっています」

母校や友人に感謝

摂陵4期　丸垣内幸雄氏

20数年前の卒業式、帰りのバスの窓外には、大粒の涙で目を真っ赤に腫らし、手を振る担任の先生の姿がありました。今では大切な私のお客様です。

平成元年に新しく大阪にオープンした「新大阪ワシントンホテルプラザ」に宴会係として勤務しています。バブルの真っ最中に、何のためらいもなく転職いたしました。現在では大阪の玄関口として、全国からのお集まりや同窓会など幅広くご利用いただいています。

気がつけば私も、摂陵4期の同窓会をここで2回も開催していました。連絡の途絶えていた旧友に再会し、顔も名前も記憶にない新しい同級生?も増えました。今では主に仕事（宴会）のお付き合いを幅広くさせていただいています。

母校にも入試説明会や各種研修会の打ち上げなど、多々お世話になっております。バブル崩壊後、今なお新大阪で「笑売」ができるのも高校時代を一緒に過ごした恩師や先輩、仲間がいるからと思う次第です。

親子2代で寮生活

（文・繊維2期　祖田好夫）

田中昌明氏（父）　繊維2期

寮は6人部屋で夏はクーラーがなく、冬の暖房は蒸気方式のため、なかなか温かくならなかったそうです。

183㎝の長身で在学中はバレーボール部で活躍。3年間担任をしてくれた森宏毅先生が印象に残っているそうです。

卒業後は京都の染色会社に勤務、昭和57年海外出張中に脳血栓で倒れ、失語症になられましたがその後三田市で得意の陶芸を生かし、ギャラリー喫茶「トークゆうゆう」の運営にかかわっておられます。三田市在住。

田中秀明氏（子）　摂陵17期

寮は1人部屋で、寮生活をしているのは少数だったそうです。

父親似の長身で190㎝、ラグビーで活躍。ラグビー部の顧問であり、卒業後の進路指導を担当してくれた廣瀬壽哉先生が印象に残っているそうです。

茨城県の流通経済大学に学び、大学でもラグビーを続けました。卒業後は横浜の不動産会社に勤務、現在横浜市在住です。

後列左が昌明氏、となりが秀明氏。前列が昌明氏のおい（秀明氏のいとこ）であり、摂陵21期生の岸見重樹氏（現在宝塚市在住）

「今」とは自分がしてきた決断の積み重ね、未来はその延長

摂陵30期　井上雅之氏

私はクラブに一生懸命で、将来のことを考えたのは3年生になってからでした。その時読んだのが、暴走族から足を洗い、4カ月間の猛勉強の末、大学に入学した人の本でした。それに影響を受け、「よし、オレもやってやる」と、実家が医師の家系であったこともあり、医学部受験を決意しました。

最初は誰も相手にしてくれませんでしたが、がむしゃらに勉強しました。浪人が決まると「おまえは5浪しても駄目だ」とも言われました。しかし予備校に入って朝8時の開門と同時にお気に入りの席に座り、午後9時の閉館までの勉強を続けました。最初のうちはつらかったですが、慣れてくるとむしろスポーツをしたときのような充実感がありました。それは一生懸命何かをすることで「生きている」と感じていたからだと思います。

結果的に2浪して筑波大学の理工学群に入りました。でももう1度考え、それでも医師になりたいのならまた受験すればいいと思っています。リンカーンの言うように「あなたがなるべき人間になるのに遅すぎることはない」のですから。

長かった受験勉強ですが、後悔はありません。ただ自分の努力が足らなかったのでしょう。今というものはこれまで自分がしてきた決断の積み重ねであり、未来はその延長であり、運命や偶然ではないからです。そう思えるのも私が常に現在進行形の今を懸命に生きてきたからだと思います。ですから私は摂陵の卒業生であることを誇りに思っていますし、2浪したことを後悔していません。

Believe in yourself. Just in you.

会員インタビュー

今や売れっ子作家に

上甲宣之氏（摂陵17期生）

インタビュアー●繊維3期　浅野正憲

宝島社主催「このミステリーがすごい！大賞」で読者投票第2位にランクされ、作家デビューを果たした摂陵17期の上甲宣之氏。デビュー作「そのケータイはＸＸ（エックスクロス）」の売り上げが30万部となり、昨年、映画化され東映にて全国で上映されました。それ以降も執筆した小説がベストセラーになり、「紅蓮女」はドラマ化されています。

「もう33歳になったんですよ」と笑う上甲氏ですが、在学当時の面影はうっすらと残っています。作家として活躍中の上甲氏に、本校でのサイン会の合間にお話をお伺いしました。

在学中の思い出は？

自分でいうのもヘンなのですが（笑い）、割合まじめに勉強しました。クラブは入っていなかったので、唯一の楽しみはお小遣いをためて買った文庫本の小説を読むことでした。

当時から何か書きたいと思っていたのでしょうか。

高3の時、大学が決まってからはすることがなくて、小説めいたものを書いたこともあります。ＳＦやミステリー、それに芥川龍之介や江戸川乱歩が好きで、とにかく読むことを楽しんでいたという感じでした。

立命館大学では専攻は文学部哲学科でしたね。そこで学んだことが本格的に小説を書こうと思ったきっかけになったのですか？

直接的な関連があるわけじゃないのですが、すべてのことを疑ってみるという訓練は受けたので、そうした発想が今の作品に生かされているかもしれません。

小説の着想はどこから得るのですか。

子どものころやったゲームやいろいろな遊びが案外役に立っているんです。どうしたら読者をぐいぐい引っ張っていけるかと。それと意外に思われるかもしれませんが、最初の作品（そのケータイはＸＸ）は芥川龍之介の小説「藪の中」からヒントを得たんですよ。

今後の抱負を聞かせてください。

とにかく読者あっての仕事だと思っています。僕の作品の読者層は男女を問わず、中学生から30代前半の方が中心なんですよ。そうした読者の方々に楽しんでもらえるようなものを書いていきたいですね。

最後に在校生にひと言。

活字を追っていくのは楽じゃないと思いますが、本を読む楽しみを身につけてください。

上甲氏は、大阪の大手ホテルに勤務しながら執筆活動を続けています。現在取り組んでいる6作目の作品には、今までとは違った趣向を盛り込みたいそうです。勤務があるため執筆はたいてい夜中なんだそうですが、「仕事が好きなんで大丈夫です」と目を輝かせていました。

会員の転居先、近況の連絡は同封のハガキをご利用ください

〉〉友人、先輩、恩師の転居先をお知らせください

本会では、「会報」を定期的に発行することにより、会員相互の連携や、母校の現状と発展する雄姿をお伝えしていきたいと考えております。

そのためには会員の皆様の現住所や氏名など連絡先を正しく把握する必要があります。しかしながら、本会の会員数は既に1万2000名を超え、更に毎年増加しています。そのため、会員と本会との連絡が希薄になりつつあります。会員の転居などにより連絡先などを把握できていない方が残念ながら少なくありません。つきましては、同期の友人たちだけでなく、クラブの先輩、後輩、恩師の方々の現住所など連絡先をご存じの方は同封のハガキで、本会までお知らせくださいますようお願い致します。

また、ご自身の近況や在校中の思い出などもお寄せください。いずれも同封のハガキをご利用ください。

〉〉メールでも受け付け

メールでも転居連絡、近況報告を受け付けております。

メールをご利用の方はこちらにご連絡ください。
E-mail：shureikai@utopia.ocn.ne.jp

訃報

元摂陵中学校・高等学校学校長の中田善明先生が本年3月11日、病気のため逝去されました（享年74歳）。先生は昭和9年大阪生まれ。昭和32年関西大学経済学部卒、昭和40年4月、向陽台高等学校に社会科教師として着任され、摂陵高等学校においても教壇に立たれました。その後、向陽台高等学校学校長、学園長など要職を歴任され、平成17年12月、母校の第10代学校長に就任されました。

また先生は、同人誌「葦」を主宰され、小説「釜鳴り」「美しき魔性」など文芸作品などを多数発表。文壇からも高い評価を受けています。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

秀麗会役員立候補受付の告示

平成18年2月25日の幹事会において決定され、就任した現職役員の任期が平成21年2月24日に満了を迎えます。このため、本会規約第11条により選挙管理委員会を組織し、規約第7条に定める会長ほか各役員（表1参照）への立候補手続きを告示いたします。

【立候補条件】

●各役員は本会の正会員中より選出されます。ただし、規約第7条の定めにより庶務については正会員である母校職員中から選出されます。

●立候補者は、規約第11条の定めにより、所定の会費を納付済みであることが条件となります。

【立候補手続】

●官製ハガキに、氏名、現住所（郵便番号を含む）、電話番号、卒業年を明記の上、平成20年9月1日（月）までに別記の選挙管理委員会あてに立候補届け出用紙を請求してください（期日厳守）。折り返し、選挙管理委員会より立候補資格の有無を確認の上、立候補届け出用紙および規約ほか関係資料を郵送いたします。

【その他】

●次期役員の任期は規約第8条の定めにより、平成21年2月25日から平成24年2月24日までの3年となります。

●立候補者が各役職別の定員に満たない場合には、規約第11条の定めにより選挙管理委員会は役員候補者指名委員会に変更され、各役職別に候補者を指名することになります。

●次期役員は規約第11条の定めにより、幹事会において決定されます（次期役員を決定する幹事会は平成21年2月24日までに開催の予定です）。

●立候補に関するご質問などはすべて文書により、別記の選挙管理委員会あてにご郵送ください。お電話でのお問い合わせは母校の業務に多大な影響を与えることにもなりますので、ご遠慮ください。

（表1）

役職名称	定員
会　長	1
副会長	2
書　記	2
庶　務	2
会　計	2
会計監査	2

【選挙管理委員会事務局】
〒567−0051
茨木市宿久庄7−20−1
摂陵高等学校内・秀麗会（同窓会）
選挙管理委員会

●左記の11人で役員を務めています

会　長　祖田 好夫（繊維2期）
副会長　福永 正博（繊維3期）
副会長　古賀 郁朗（摂陵1期）
庶　務　上沼 敏彰（繊維4期）
庶　務　西田 昌司（摂陵1期）
書　記　小阪 克彦（摂陵4期）
書　記　渡邊 斉章（摂陵21期）
会　計　浅野 正憲（繊維3期）
会　計　前澤 郁浩（摂陵5期）
会計監査　堀川 日出男（繊維10期）
会計監査　小山 昇三（繊維2期）

※平成20年3月卒業生が32期生となります。

※17期、18期、20期～25期は氏名が不明です。幹事ご本人又はご存じの方は本会までご連絡下さい。

●平成20年度新規加入会員について

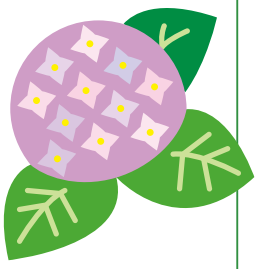
平成20年3月に母校を卒業され、平成20年度に本会正会員となられました会員の方々についてご報告いたします。なお、母校の卒業生総数は平成20年3月卒業生を含め、12171名です。

平成20年度新規加入会員は、摂陵32期生342名です。中学校より摂陵に学ばれた方々は平成14年4月に、高校より摂陵に学ばれた方は平成17年4月にそれぞれ入学された方々です。本会では摂陵32期生の皆様の入会を心より歓迎します。母校のますますの興隆と同窓生同士の交流がより盛んになるよう、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、第32期生の幹事には次の2名が就任されました。

北風　翔一郎氏
田浦　功祐氏

次号予告



次号は、平成21年6月ごろの発行を予定しています。好評の「恩師を訪ねて」などのシリーズ記事の続編や幹事会開催の報告、就任された新役員の紹介記事なども掲載予定です。お楽しみにお待ちください。

編集後記

繊維工業高等学校の1期生が60歳を迎えました。卒業生数全体では約1万2000名いますが、摂陵高校の10分の1以下になりました。

そんなわけで、秀麗会役員も、若いパワーあふれる摂陵高校の卒業生のみなさんに委ねたいと思います。みなさんの中からぜひ役員に立候補してください。

役員の仕事といっても、そんなにむずかしいことではありません。なつかしい先生方にお会いしたり、なつかしい友人と会う機会ができ、高校時代にタイムスリップしたような気分にさせてもらったりします。

モノレールの延伸で、駅から徒歩15分と、交通の便も良くなりました。時代が変わり、母校もいろいろな変革を迫られていますが、人と人のきずなは昔も今も変わらないように思います。学校はいつも卒業生をあたたかく迎えてくれます。これからも母校の卒業生であることに誇りを持っていきたいと思います。

来年2月24日で退任いたします。10年間会長を務めさせていただき、ありがとうございました。

秀麗会会長　祖田好夫